

リウマチ通信

Vol. 79
2026年3月号

検査の役割（不整脈編）

たまに『ドクン』と喉から胸のあたりに感じたり、血圧は測れるのに脈拍がエラーで測れないなんて経験をしたことはありませんか？

それはいわゆる不整脈によるものかもしれません。

不整脈と言っても多種多様なものがあり、どのタイミングで起こすのか、ずっと続いているのかは検査で確認しなければわかりません。

当院で不整脈を確認できる検査がいくつかあるのでご紹介します。

* 12誘導心電図検査：約10秒～最長3分間程度の記録

* ホルター心電図検査：約24時間の記録

* パッチ型ホルター心電図：最大約7日間の記録（NEW!!）



いずれの検査にも一長一短がありますので、症状の感じ方などに応じて使い分ける必要があります。

また、不整脈だけでなく高血圧をお持ちの方には心臓超音波検査による評価も合わせてしていただくと、より心疾患の早期発見・早期治療へ期待ができると思いますので気になる方は担当医へご相談ください。

（ 文責 検査科 ）

～ 運動で変わる炎症：マイオカインの役割～

関節リウマチといえば『炎症』がキーワードですが、その炎症に関わる物質のひとつが

『IL-6』（インターロイキン6）です。

IL-6 は一般的に炎症を悪化させるサイトカインとして知られていますが、実は運動中にはまったく違う働きをすることがわかっています。

・マイオカインとは

筋肉は体を動かすだけでなく、運動するとさまざまな物質を分泌します。これを『マイオカイン』と呼びます。

そのひとつに『IL-6』があります。

・運動中の IL-6 は抗炎症に働く

関節リウマチの炎症で出る IL-6 は炎症を促進しますが、筋トレや運動中に筋肉から分泌される IL-6 は次のような作用があります。

○炎症を抑える（抗炎症作用）

○脂肪分解を促進

○インスリン感受性の改善（血糖値を下げるインスリンが効きやすくなる）

つまり、同じ IL-6 でも、出どころで働きが変わります。



（ 文責 理学療法士 山野 雄輝 ）